

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表: 令和 8 年 3 月 27 日

事業所名 重症児デイサービスmiki

		チェック項目	はい	いいえ	工夫すべき点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0		
	2	職員の配置数は適切である	5	3		利用希望者が多く、時にはマンツーマンの体制になれないこともある。重症度の高いお子さんも増えているため、看護師の配置増や職員のスキルアップ等がはかれるような取り組みをしていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	1		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	5		業務改善会議や安全衛生会議を開催しているが、非常勤職員への周知参画ができるように、配慮が必要である。議事録の共有や会議への参画等を促していきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	6		面談を通して意向の確認をしたり、アンケートを実施し、会議でも検討して業務改善の機会を設けているが、非常勤職員への共有や周知をしていけるようにしたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	7		結果は公表しているのに、職員に周知していききたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	7		昨年より外部団体に評価を依頼し、業務改善を行なっているが、職員に周知できていないため周知していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0		
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	2		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4		個別支援計画の共有はしているが、明確なアセスメントツールは活用できていないため、模索していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	2		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2	6		自立支援と日常生活の充実のための活動・多様な遊びや体験活動・地域交流の活動・子どもが主体的に参画できる活動について検討し、計画立案の参考にもしているが、そのことが周知できていないので、共有していく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	4	サービス担当者会議には、現場看護師や管理者が参加しているが、そのことが周知できていないので、共有していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	3	学校の情報共有は保護者を介して行なっている。また、欠席等トラブルが発生した際も学校を通して保護者との連携を取ることは行なっているため、その状況を共有していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	2	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	5	就学前に利用していた法人内の児童発達支援とは情報共有を行っているが、他法人とは積極的に情報共有できていなかったため、機会を設けられるようにしていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	3	学校卒業に伴う障害福祉サービス事業所への情報提供を行う機会はないが、そのようなケースが発生した場合は情報共有できるようにしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	6	障がいのない子どもとの活動の機会は模索していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4	協議会には他部会に参加できているので、そのことを職員に周知していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	1	7	面談等で保護者にはペアレントトレーニングに近い支援を行っているが、より専門性を持った支援が行えるよう情報収集していきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	5	諸々の内容は保護者には説明を行った上でサービス提供を行っている。日々の通所記録や請求等で情報は共有しているが、そのことを職員にも共有していきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	4	日々のやり取りのかかたで、相談に応じ、助言や必要機関に繋ぐ等の支援は行なっているため、内容の共有もしていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	3	保護者勉強会や交流会を行っているが、より多くの方に参画していただけるよう工夫していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	3	管理者や担当職員に情報共有ができるよう、報告書等のツールも活用している。引き続き情報共有を行っていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	2	
	35	個人情報に十分注意している	7	1	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	0	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	2		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	5		インシデントレポートを常に作成してもらい、ファイリングして閲覧できるようにしているが、事象発生時は情報共有できるようにしていきたい。